

支援の経緯と実績

新型コロナウイルス感染症は、パンデミックを引き起こし、入院患者数を増加させ、重症患者等に対する入院医療の提供に支障をきたすという重大な事態を引き起こした。厚生労働省は、医療資源の確保のために、新型コロナウイルス感染症の軽症者等について自治体の研修施設等や民間の宿泊施設での宿泊療養を実施する方針を示した（厚生労働省、2020）。本学は、2020年4月13日に、沖縄県から、療養施設への看護教員の派遣の要請を受けた。看護活動への参加希望者による看護チームを編成し、療養施設での研修とミーティングを経て、4月17日から宿泊療養施設での支援を開始した。同時に、大学内に現場を支援する「現場支援プロジェクト」を含む危機管理対策組織を立ち上げ、看護人材トレーニングチームによる研修を開催し、宿泊療養施設で支援を行う交代要員を育成するなど、大学全体で支援活動を支える体制をとった（図）。

宿泊療養施設での支援は、5月15日までの33日間行われ、述べ13名の看護教員が参加した。看護教員は、沖縄県職員や感染管理認定看護師、ホテル従業員とともに、感染予防対策において必要な助言を受けながら、

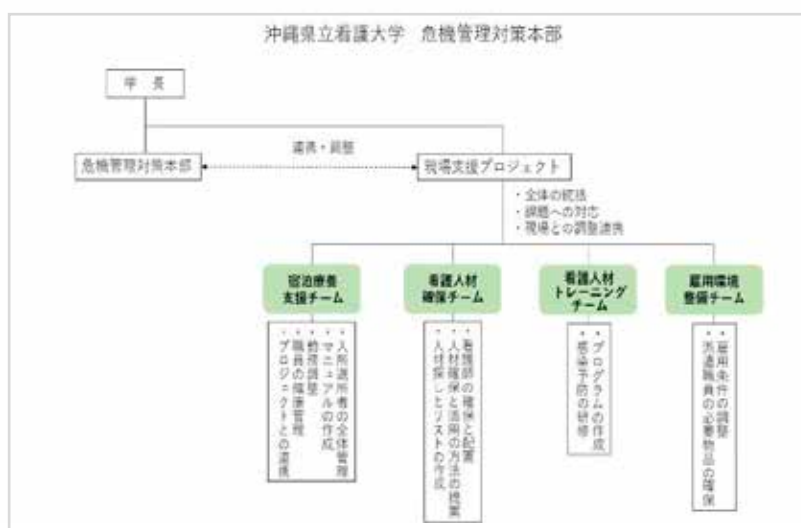


図 危機管理対策組織

ながら、試行錯誤を重ね、療養者の支援の方法を見つけ出し、健康観察や療養者の困りごとが解決され生活できるよう手助けをする支援を行った。宿泊療養支援は、支援のために沖縄県が採用した看護師へと活動を引き継ぎ、活動を終了した。

宿泊療養施設は、新型コロナウイルスという未知のウイルスに感染した療養者が、行動に制限を受けながら生活する場であったことから、療養支援における活動は、療養者の心情に配慮しつつ、療養者が困ることなく生活できるよう手助けをする看護活動だったといえる。また、看護チームや多職種をウイルス感染の危険から守り、安全を維持しながら行われた活動であったと考える。

With コロナに向けて

新型コロナウイルス感染症の感染拡大という緊急時に、大学が一丸となって取り組んだ支援活動は、大学による地域貢献のひとつのモデルになるのではないかと考える。この経験をこれからの地域貢献に活かしたい。